

かるいざわ ツキノワグマ ゾーニングマップ

ヒトとクマとの すみ分けに向けて

豊かな森に包まれた軽井沢町には、ツキノワグマが生息しています。その居場所は、季節の旬の食べ物がある場所、クマどうしの社会関係、冬眠場所など状況に応じて変わります。軽井沢町では、長野県第二種特定鳥獣管理計画により、人間活動エリアからクマ生息エリアまで土地の状況に応じて、事故や被害を未然に防ぎ、安全に過ごすため、地域区分毎にツキノワグマの管理目標を定めており、これを「ゾーニング管理」と呼びます。このことにより、ヒトとクマのすみ分けを目指しています。

地図中のアイコンは、各季節でのクマの食べ物や、クマの利用が多い代表的な場所を示しています。また、食べ物のアイコンは下の表と対応しています。

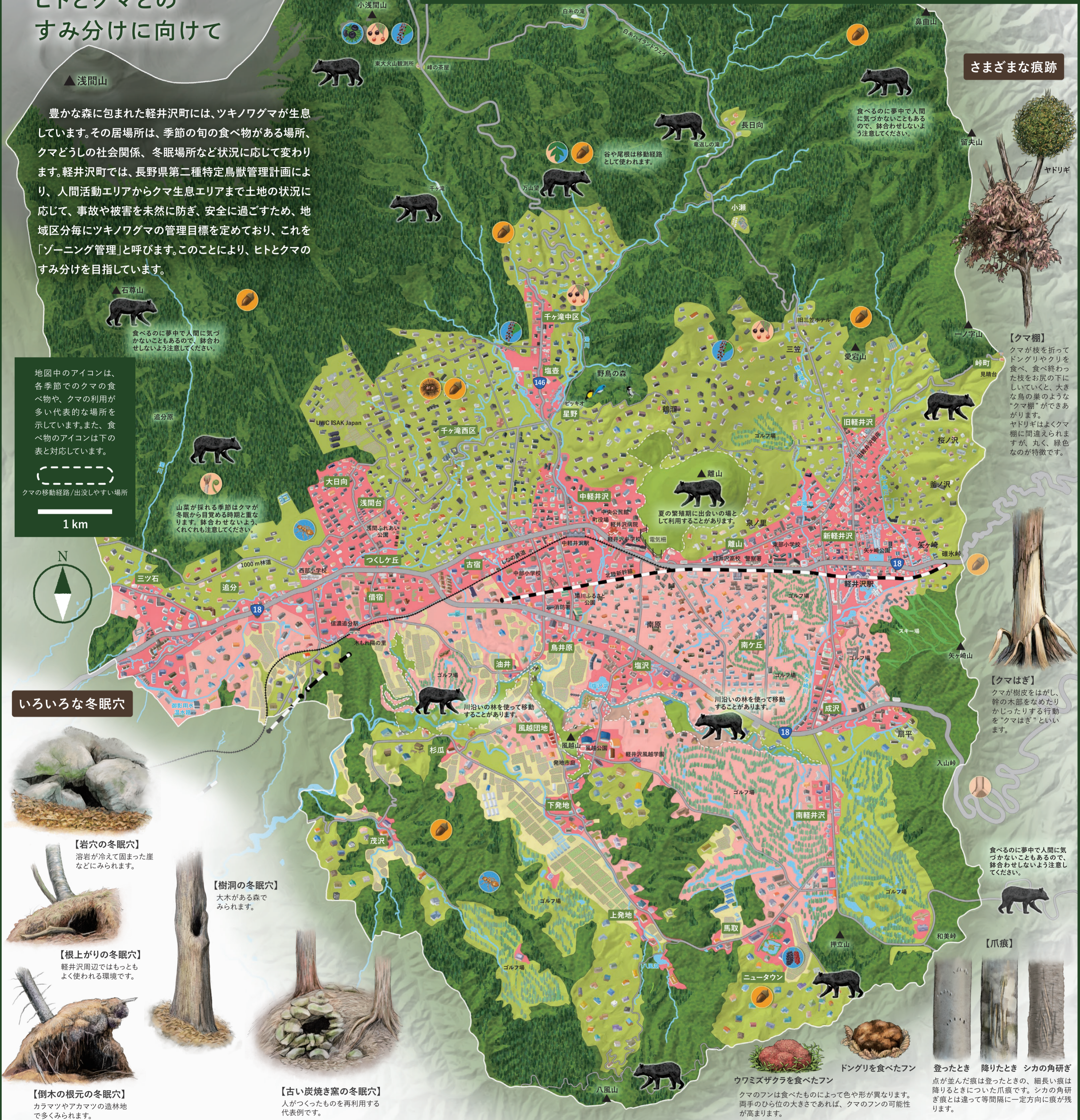
クマの移動経路/出没しやすい場所

1 km

クマ出没時の対応方針(概要)

エリア区分	クマ生息エリア	緩衝エリア			人間活動エリア(高)	
	広葉樹 針葉樹	別荘地	耕作地	人間活動エリア(中)		
方針	保護優先	侵入抑止(クマの教育)	防除	侵入抑止・滞留抑止	排除	
対策 (クマの問題レベル)	低	● 遭遇防止策の徹底 ● 発信器を装着するための捕獲	● 追い払い ● 誘引物や隠れ場所の除去 ● クマに境界線を覚えさせる	● 電気柵による防除の徹底 ● 誘引物や隠れ場所の除去	● 追い払い ● 誘引物や隠れ場所の除去	● 昼も夜も侵入・滞在させない ● 誘引物や隠れ場所の除去
	中					
	高	捕獲※	捕獲※	捕獲※	捕獲※	捕獲

各エリアの対応方針とクマの問題レベルに応じて適切な対策を実施



さまざまな痕跡



【クマ棚】
クマが枝を折ってどんぐりやクリを食べ、食べ終わった枝をお尻の下に置いていくと、大きな鳥の巣のような「クマ棚」ができあがります。ヤドリギはよくクマ棚に間違えられますが、丸く、緑色なのが特徴です。



【クマはぎ】
クマが樹皮をはがし、幹の木部をなめたりかじったりする行動を「クマはぎ」といいます。

食べるのに夢中で人間に気づかないこともあるので、録合わせしないよう注意してください。

【爪痕】



登ったとき 降りたとき シカの角研ぎ点が並んだ痕は登ったときの、細長い痕は降りたときについた爪痕です。シカの角研ぎ痕とは違って等間隔に一定方向に痕が残ります。

いろいろな冬眠穴



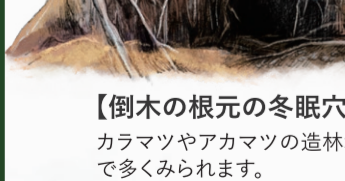
【岩穴の冬眠穴】
溶岩が冷えて固まった崖などにみられます。



【樹洞の冬眠穴】
大木がある森で見られます。



【根上りの冬眠穴】
軽井沢周辺ではもっともよく使われる環境です。



【倒木の根元の冬眠穴】
カラマツやアカマツの造林地で多くみられます。



【古い炭焼き窯の冬眠穴】
人がつくったものを再利用する代表例です。

ツキノワグマの一年



クマの痕跡に関する詳しい情報は、こちらの「クマ識別・通報ガイド」をご参照ください

制作/ 軽井沢町
監修/ NPO法人ピッキオ
イラストレーション/ 菊谷詩子
デザイン/ 大塚杏子

※測量法に基づく国土地理院承認 (使用) R 7JHs 726